

山ノ根廻七百二十間、山ノ南ノ高十四間、北ノ高十六間四尺、中ノ高十間五尺、中島摠ジテ此陵ヨリ方角ヲ取テ、餘ノ陵所記ス、秀吉公度々此陵ニテ獵シ玉フニ、假ニ居ヲ構玉ヒケレバ、其墟ヲ今ニ茶屋山ト所ノ人云リ、

〔泉州志〕仁德天皇陵山陵號大在舳松領兆域今所存外堤千二百八十三間中堤九百五十五間山根七百六十三間南峰高十四間北峰高十六間四尺四畔小塚九箇、

〔輶軒小錄〕山陵の事

仁德帝の陵は、泉州堺の東廿町許にあり、周回十丁餘ありて、まはりに堀あり、はゞ三四間あり、小舟一艘ありて往來す、上に登れば谷々ありて小山の如し、予兩回まで拜覽す、土人此を大仙陵と云ふ、

〔北窓瑣談中〕泉州堺の東、六七町ばかりに、仁德天王の陵あり、俗に大仙陵といふ、ばなはだ大にして南北に長し、その長三四五町ばかりもあり、回迫に池あり、みさゝきは北の方高く、南の方ひくし、樹木おびたゞしく生茂げり、その大なること天造の岡山の如く、人作のやうにはみえず、今も樹木をきり下くさをかるとを官より禁じ、雜人の入とをゆるさず、天下の陵の大いなるものは、此陵を第一とすべし、

〔延喜式二十一〕百舌鳥耳原南陵磐余稚櫻宮御宇履中天皇申諸陵略丹比柴光域東西三町南北五町

〔扶桑略記履中〕六年三月十五日、天皇春秋六十七崩、十月四日葬于和泉國大鳥郡百舌鳥耳原南陵、五丈

〔延喜式二十二〕百舌鳥耳原北陵丹比柴光域東西三町南北二町

〔扶桑略記反正〕六年正月、天皇六十崩、葬和泉國大鳥郡百舌鳥耳原北陵、高三丈

〔延喜式二十三〕惠我長野北陵遠飛鳥宮御宇允恭天皇申諸陵略